ケアネットライブ Oncology
イチからわかる がんゲノム診療
無料配信中

COVID-19 新型コロナウイルス 関連情報

人気記事ランキング
週間 月間

1 新型コロナ第6波の重症化率と致死率／厚生労働省
医療一般

2 3回目接種3ヵ月後、日本の医療従事者での抗体価は
医療一般 日本発エビデンス

3 リンデロンVG軟膏が査定でゼロに
斬らレセプト

4 5～11歳への新型コロナワクチンの副反応の頻度は？／厚生労働省
医療一般

5 新型コロナによる血栓・出血リスク、いつまで高い？／BMJ
ジャーナル四天王

6 60歳以上の4回目ファイザー製ワクチン、感染・発症予防効果は…
ジャーナル四天王

7 英語で「熱が下がる」、患者さんと話すときはコレ！
1分★医療英語

8 意外に多い薬剤熱が不明熱の正体？
診療よろず相談TV

9 診断遅滞で研修医寝たきり、鹿児島大などに約3億円の賠償命令
まとめる月曜日

10 新型コロナへのイベルメクチン、RCTの結果が明らかに／NEJM
ジャーナル四天王

医師閲覧ランキング

MEDuLiTe 製品紹介なし
中立的な臨床医学動画
世界最大医学メディアの
医師生涯教育
今すぐチェック

抗精神病薬の治療歴とその後の代謝関連副作用との関係

提供元：ケアネット ツイート いいね！0 公開日：2022/04/26

抗精神病薬治療によるさまざまな有害事象が報告されているが、重篤な副作用が頻繁に認められるわけではない。中国・Second Xiangya Hospital of Central South UniversityのYe Yang氏らは、抗精神病薬の治療歴が現在の抗精神病薬誘発性代謝関連副作用と関連しているかを確認するため、検討を行った。BMC Psychiatry誌2022年3月21日号の報告。

抗精神病薬未治療患者115例、代謝関連副作用リスクの低い抗精神病薬による治療歴を有する患者65例、同リスクの高い抗精神病薬による治療歴を有する患者88例を対象に、ケースコントロール研究を実施した。すべての患者に対し、オランザピン治療を実施した。体重、BMI、血糖値、脂質パラメータ、ベースラインより7%以上の体重増加が認められた患者の割合、脂質異常症の割合を評価した。すべての評価は、ベースライン時、治療開始4週目および6週目に実施した。

主な結果は以下のとおり。

・オランザピン治療により、抗精神病薬未治療患者は他の2群と比較し、体重とBMIの有意な増加が観察された（それぞれp＜0.05）。
・代謝関連副作用リスクの高い抗精神病薬による治療歴を有する患者では、他の2群と比較し、脂質レベルが有意に高かった（それぞれp＜0.05）。
・抗精神病薬の治療歴と体重増加との間に有意な関連は認められなかった（すべてのp＞0.05）。
・抗精神病薬による治療歴を有さない患者と比較し、同治療歴を有する患者では、3.37mmol/L^{-1}以上の高LDLコレステロール値が観察された（aOR：1.75、95%CI：1.07～3.52）。
・とくに、代謝関連副作用リスクの高い抗精神病薬による治療歴を有する患者では、他の2群と比較し、3.37mmol/L^{-1}以上の高LDLコレステロール値リスクが高かった（aOR：2.18、95%CI：1.03～3.32）。

著者らは「抗精神病薬治療歴、とくに代謝関連副作用リスクの高い抗精神病薬による治療歴を有する患者では、現在使用している抗精神病薬により誘発される代謝関連副作用との関連が示唆された」としている。

（鷹野 敦夫）

原著論文はこちら

Yang Y, et al. BMC Psychiatry. 2022;22:210.

掲載内容はケアネットの見解を述べるものではございません。（すべての写真・図表等の無断転載を禁じます。）

関連記事

統合失調症の抗精神病薬関連代謝異常～最新レビュー
医療一般（2021/12/13）

統合失調症患者の代謝機能に対する18種類の抗精神病薬の比較
医療一般（2020/01/17）

統合失調症まとめ【クローズアップ！精神神経　7疾患】